

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp

日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

教育工学研究の特性と今後の展開について

日本教育工学会 会長 赤堀侃司 (東京工業大学)

2007年を迎えて、学会員の皆様も、ますます研究や教育にご活躍のことと思います。今年も学会の発展のために、どうぞ、よろしくお願いします。

本学会は、会員の皆様の努力で、研究内容も研究方法も、幅広くなってきました。研究領域が広がることは学会の発展にもつながりうれしい限りです。しかしながら、本学会の役割を社会的に幅広く認知してもらうためには、学問研究の深化に向けて、学会として重点目標を定めるべきではないかという声も聞かれました。そこで「教育方法・システムを高度化する教育工学研究の推進」をテーマに、中期目標としての重点研究内容を設定して、これを昨年に公表しました。また、教育工学の特性を改めて、見直すことが必要だと感じ、昨年の関西大学の全国大会で、私なりの考えを述べました。その項目だけを、以下にまとめますが、詳細は、学会のホームページをご覧ください。

1. 時代と共に、テーマが移っていく
2. 教育政策と連動して、移っている
3. 研究方法も、時代と共に移っていく
4. 授業に関わるテーマを、追求する
5. 教育実践を、重視する
6. 道具を、持ち込む
7. 教育に、役立つ

以上のような特性があると思います。例えば、教育に役立つという項目の意味は、教育工学は、教育とは何かという理学よりも、どう役立つかという、工学に近い発想をしていると思います。改善すること、PDCAのサイクルで役立つ研究をする特性を持っています。役立つ研究は、すぐに役立たなくなるという、声も聞かれますが、例えば、医学の基礎と臨床のような関係で、現実の教育の改善を目指していると思います。教育工学の広がりの中で、果たすべき役割については、さらなる議論が必要です。

今年は、例年よりも早い9月22日～24日に、早稲田大学で全国大会があります。会員の皆様、教育工学の発展に向けて、どうぞ早い準備をして、早稲田キャンパスでお会いしましょう。

本号目次

教育工学研究の特性と今後の展開について-----	1	研究会の開催案内／発表募集-----	10
第23回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ		平成18年論文投稿件数と採択率-----	12
(第一報) ---	2	2007年度会費納入のお願い-----	13
第23回全国大会のお知らせ(第一報)-----	2	第11期第13回理事会議事録-----	14
論文誌ショートレター増刊号のご案内(最終報) ---	7	第11期第14回理事会議事録-----	15
産学協同セミナーのご案内(最終報)-----	8	新入会員／学会日誌／国際会議案内等-----	16
冬の合宿研究会の報告-----	8		

第 23 回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ

第 23 回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予定ください。

記

1. 日時 2007 年 6 月 16 日 (土)
10:00～12:00 シンポジウム 1
12:00～13:00 総会
総会終了後 理事・評議員会
14:00～16:00 シンポジウム 2
2. 会場 東京工業大学 西 9 号館デジタル多目的ホール
東京都目黒区大岡山 2-12-1 (東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩 1 分)
3. 総会の議事
1) 第 1 号議案 2006 年度 (2006. 4. 1-2007. 3. 31) 事業報告および収支決算承認の件
2) 第 2 号議案 2007 年度 (2007. 4. 1-2008. 3. 31) 事業計画案および収支予算案承認の件

なお、第 23 回全国大会は 9 月 22 日 (土) ～24 日 (月/休日) の 3 日間、早稲田大学人間科学部で開催します。

日本教育工学会 第 23 回全国大会のお知らせ (第一報)

日本教育工学会第 23 回全国大会を、下記のように早稲田大学 (所沢キャンパス) において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また研究発表につきましても、ポスター発表 (一般研究) ができるようになりましたので、奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2007 年 9 月 22 日 (金) ～24 日 (日) (3 日間)

会場：早稲田大学人間科学部 (所沢キャンパス) *西早稲田キャンパスではありません。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

西武池袋線小手指 (こてさし) 駅よりバス 15 分

(小手指駅南口ロータリーより直行バスを運行する予定、片道 150 円。なお、午前 8 時台は北口ロータリーから発車します。)

<http://www.human-waseda.jp/about/access.html>

2. 大会日程

第 1 日 9 月 22 日 (土)	第 2 日 9 月 23 日 (日)	第 3 日 9 月 24 日 (月)
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表 1	9:30～12:30 一般研究発表 3	9:30～12:30 一般研究発表 4
12:00～13:30 昼食	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～13:30 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム 1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表 2	14:30～17:15 シンポジウム 2	13:30～16:00 課題研究発表
	17:15～17:45 移動	
	17:45～19:45 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示は、大会開催期間中終日開催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2 日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰があります。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム 1

シンポジウム 1A e-Learning が変える高等教育システム—伝統的学部・大学院教育の改変：研究・教育そして人材育成—

コーディネータ（五十音順，以下同様）：野嶋栄一郎，松居辰則（以上早稲田大学）

シンポジウム 1B 実践研究をどのようにデザインし，論文にまとめるか

コーディネータ：木原俊行（大阪市立大学），清水康敬（メディア教育開発センター）

報告者：山内祐平（東京大学）他

コメントーター：植野真臣（電気通信大学），鈴木克明（熊本大学），矢野米雄（徳島大学）他

シンポジウム 2 教育工学研究に望まれる方法論—実践・政策・市場原理を踏まえたデザイナー—

コーディネータ：山西潤一（富山大学）

基調講演者：赤堀侃司（東京工業大学）

シンポジスト：実践者，政府関係者，他学会の研究者など

(2) 課題研究

「日本教育工学会が取り組むべき重点研究内容」の提言を踏まえながら，以下のような 8 件のテーマを設定することになりました。課題研究はその課題について討論をすることを目的としていますので，発表だけで退席することなく，最後の総合討論に参加していただくことが発表者に求められます。この点，ご留意ください。なお，課題研究のセッションは最終日の 13:30-16:00 を予定しています。

1. 新しい ICT 技術・教育システムの開発に関する研究

■K-1 モバイル・ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：中原 淳（東京大学），林 敏浩（香川大学）

■K-2 学習方略フィードバックのための学習コンテンツの構成と学習データの利用

コーディネータ：松居辰則（早稲田大学），室田真男（東京工業大学）

■K-3 ICT 技術・教育システムの評価の視点と方法

コーディネータ：池田 満（北陸先端科学技術大学院大学），中山 実（東京工業大学），平嶋 崇（広島大学）

2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究

■K-4 教科指導における ICT 活用の効果分析とそれに基づく授業デザインの研究

コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学），高橋 純（富山大学）

■K-5 教育サービスとしての e-Learning 導入の検討

コーディネータ：赤倉貴子（東京理科大学），金西計英（徳島大学），田口真奈（メディア教育開発センター）

■K-6 教育工学関連製品を企業の開発者自身が点検・評価・検証する

コーディネータ：鈴木克明（熊本大学），井上義裕（日本電気），大久保 昇（内田洋行），奥田 聡（富士通），栗山 健（学習研究社），野澤敏夫（東京書籍）

3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究

■K-7 情報教育カリキュラムの再検討—新学習指導要領・情報モラル教育の重点化を受けて—

コーディネータ：久保田賢一（関西大学），中橋 雄（福山大学），堀田龍也（メディア教育開発センター）

■K-8 教員の ICT 活用指導力を高める養成・研修と実践

コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学），東原義訓（信州大学）

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお，「その他」を選んだ場合は，分野及び想定されるセッション名を記述していただくことになります。

今大会の一般研究発表については，口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が選べることになりました。ポスター発表のセッションは，より深い議論の場を提供するために，口頭発表と同時間帯に並行して開催されるものです。ただし，ポスター発表者は，発表時間帯にポスター前で，説明と討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) (3) 情報教育 II (教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) その他

(4) International Session

従来の English Session を名称変更したセッションです。発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと思います。なお、発表は一般研究発表 1～4 のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10 分 研究発表各 15 分 総合討論 1 時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表 15 分 質疑応答 5 分 <ポスター発表>1 セッション（約 3 時間）の間、
掲示し、説明や討論に従事することになります。

[International Session] 発表 15 分 質疑応答 5 分

4. 大会までのスケジュール

6 月 21 日（木） 課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4 ページ）提出締切

7 月 5 日（木） 課題研究採否決定通知

7 月 19 日（木） 課題研究・一般研究・International Session の参加費事前送金締切（郵便振り込みの場合）

7 月 26 日（木） 課題研究発表原稿（2 又は 4 ページ）提出及び参加費事前送金締切
一般研究発表/International Session 申込書・原稿（2 ページ）提出及び参加費事前送金締切。なお、**17:00 が最終締切時刻**となります。

8 月 16 日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振り込みの場合）（それ以降は送金しない）

8 月 23 日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（それ以降は送金しない）

5. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、前回大会より、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになりました。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSET ホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ 1 件（1 人合計最大 3 件）を発表者として申し込むことができます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月21日(木) 17:00までに提出してください。
- ・ページ数はA4版2~4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、第2報以降及びJSETホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月5日(木)までに申込者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。原稿見本(次号に掲載予定)、またはJSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・JSETホームページ大会関係部分から、7月26日(木) 17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及びInternational Sessionの発表申し込み方法

- ・7月26日(木) 17:00までに、JSETホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

(5) CD-ROMの作成について

今大会の論文集から、冊子体のものに加えて、CD-ROM(pdfファイル)を作成することになりましたので、ご了承下さい。また、大会原稿の著作権を学会にいただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、学会事務局(五反田) office-g@jset.gr.jpまでご連絡ください。発表者が参加されない場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません(学会から提供する発表リストから削除します)。ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

6. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備(プロジェクタ)が利用可能です。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示のパネルを用意します。また、ポスター発表5件に1台の割合でデモンストレーション用のプロジェクタを用意します。プロジェクタを利用する人はパソコンを持ち込みの上、同一会場内の利用者と時間調整してお使いください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学人間科学部向後千春研究室気付

日本教育工学会第23回全国大会 実行委員会事務局 宛

E-mailでの問い合わせ先: taikai2007@list.waseda.jp

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (taikai2007tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせください。

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、JSET ホームページでのクレジットカード決済によって、あるいは後日 JSET ニューズレターに同封します郵便振替用紙をご利用になり、参加費のお支払いをお済ませください。それによって受付とさせていただきます。その期限は、下記のとおりです。

(1) 発表者は、7月26日(木)17:00までに、参加費をお支払いください。この期限までに参加費及び2007年度会費の納入が確認できない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

(2) 発表者以外の一般参加者は、8月23日(木)までに、参加費のお支払いをお済ませください。それ以降は、大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 事前 3,000円(一般) 2,000円(本学会学生会員)

*発表者は7月26日(木)まで、一般参加者は8月23日(木)まで。郵便振替の場合は、必ずそれぞれの締切日の1週間前までにご送金ください。

当日 4,000円(一般) 3,000円(本学会学生会員)

論文集代 6,000円 今大会からCD-ROM付きになります。

懇親会費 5,000円(予定)

論文集送料 1,000円(参加しない場合)

なお、8月23日(木)以降に割引の事前参加費を送金された場合は、大会当日参加費との差額(1,000円)を大会受付でお支払いいただきます。

また、送金後の変更に伴う返金は原則としていたしませんので、ご了承ください。

①ただし、8月23日(木)までの変更については、返金は致しませんが、次年度の年会費に振り替えることができます。学会事務局(世田谷) office-s@jset.gr.jp まで連絡ください。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金できないことをご了解ください。

②大会参加費と論文集代を送金され、8月23日(木)までに学会事務局に連絡がなく大会に参加されなかった場合には、大会終了後に論文集をお送りします(送料は参加費で補填いたします)。ただし、その差額は返金できません。

9. 宿泊案内について

大会企画委員会では旋致・紹介は致しません。参加者ご自身で早めに予約してください。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス: taikai2007@jset.gr.jp

大会企画委員会 委員長: 木原俊行(大阪市立大)

副委員長: 向後千春(早稲田大) 鈴木克明(熊本大)

幹事: 金西計英(徳島大) 室田真男(東京工業大)

委員:

赤倉貴子(東京理科大) 池田満(北陸先端科学技術大学院大) 石川真(上越教育大)

井上義裕(日本電気) 大久保昇(内田洋行) 奥田聡(富士通) 久保田賢一(関西大)

栗山健(学習研究社) 小泉カー(尚美学園大) 新地辰朗(宮崎大) 高井尚一郎(内田洋行)

高橋純(富山大) 田口真奈(メディア教育開発センター) 中橋雄(福山大) 中原淳(東京大)

中山実(東京工業大) 野澤敏夫(東京書籍) 野嶋栄一郎(早稲田大) 林敏浩(香川大)

平嶋宗(広島大) 東原義訓(信州大) 堀田龍也(メディア教育開発センター)

松居辰則(早稲田大)

アドバイザー:

赤堀侃司(東京工業大) 清水康敬(メディア教育開発センター) 永野和男(聖心女子大)

矢野米雄(徳島大) 山西潤一(富山大)

大会実行委員会

野嶋栄一郎(委員長) 永岡慶三(副委員長) 向後千春(事務局) 浅田匡 菊池英明 金群

スコット・ダグラス 西村昭治 保崎則雄 松居辰則 三尾忠男 加藤尚吾(以上、早稲田大)

ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ

(最終報)

日本教育工学会論文誌 Vol.31, Suppl. の発行

論文受付締切：平成19年4月2日(月) 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌 Vol.31, Suppl.は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol.27より以下のようになりましたのでご注意下さい。

(詳細は、JET117号参照)

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守。(4ページを超えるものは採録しない)
2. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年1編に限り投稿できます。
3. 平成19年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させてまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけてください。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(平成19年度):

- 4月中 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

投稿論文の送付先:

日本教育工学会 編集委員会 事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7
マルキビル

電子投稿でも受け付けています。

<http://www.jset.gr.jp/>

産学協同セミナーのご案内（最終報）

「教育システム・コンテンツ開発 アイデアマーケット」

詳細決定，求む聴講参加者

アイデアマーケットは，研究者が開発した教育システムやコンテンツを企業の方に売り込む場です．公募で選ばれた8人の研究者によるプロトタイプ DEMO を，産業界で活躍する審査員が評価します．審査員は，市場で流通する教育システム，学習コンテンツの開発・商品化に「今現在」取り組んでいらっしゃる方々に依頼中です．

研究者の「想い」の詰まったプロトタイプシステムに，産業界の審査員がどんな評価を下すのか？一緒に見てみませんか？自分の研究成果を世の中に出したいと願っているすべての研究者にとって，刺激的で示唆に富んだセミナーになると確信しています．是非，ご参加ください．聴講参加は無料．事前申し込みの必要はありません．

日時：3月3日（土） 1時30分受付開始

2:00：開会（趣旨説明，審査員紹介）

2:10～2:20：宣伝タイム（1組1分以内でデモへの呼び込み口上を述べる）

2:20～3:20：デモンストレーション

3:20～4:20：審査員からの講評，フロアを交えた議論

場所：東京ファッションタウンビル 904 室 (<http://www.tokyo-bigsight.co.jp/tft/map/map.html>)

発表者：以下は発表順ではありません．

岡田礼子（東海大学短期大学部），東海大学短期大学部英語ホームページ

加藤浩（N I M E），相互評価端末 Sounding Board システム

河崎雅人（岡山学院大学），お手軽多肢選択型ドリル教材作成システム

佐藤朝美（東京大学大学院学際情報学府），幼児の物語行為支援システム

大浦弘樹（東京工業大学大学院），アイデアの外化，共有，利用を誘発するツール

舟生日出男（広島大学），自分たちの考えを協同で練り上げる電子こね板

藤澤大（朝日大学大学院），学校教育における Web ページの蓄積，オンデマンド利用に関する著作権情報を管理するシステム

香山瑞恵（専修大学），高等学校情報科における情報の科学的な理解促進プログラム

*その他詳細は，日本教育工学会 HP をご覧ください．

2006 年度 冬の合宿研究会報告

新年早々の1月6日・7日，「学力向上と ICT 活用との関連を実証的に考える」をテーマに，鳴門教育大学にて開催された．全国から多数の参加者（総計 41 名）を迎えて，盛大におこなわれた．

< 1月6日（土） >

(1) 小講演「学力をどうとらえるか，ICTは何に機能するか」13:40-14:30

永野和男氏（聖心女子大学）が，「学力をどうとらえるか，ICTは何に機能するか」というテーマで講演した．学力のとらえ方や ICT の機能等を整理した後，ICT がどのように学習へ機能するかや評価方法の工夫などについて，今回の合宿の趣旨・内容に繋がる話を行った．

(2) 討論「ICTを活用した授業，どう整理し，効果をどうとらえるか」14:45-16:00

南部昌敏氏（上越教育大学）の司会の下，3件の報告（①豊田充崇氏（和歌山大学）「ICT活用による学力向上効果の検証—長期・常時の ICT 活用がもたらす子ども・教師の変容を探る—」，②長谷川元洋氏（金

城学院大学)「ICT を活用した授業, どう整理し, 効果をどうとらえるか」, ③中川一史(金沢大学)「普通教室での ICT 活用は, なぜ日常化しないか—情報担当リーダーの役割を視野に入れて—」)がなされ, それらに基づいて討論が行われた。

①では, 日常の授業の中で継続的に ICT を利用した結果, 学力テストの得点が向上したこと, さらにプロセスの検証が必要であることが報告された。②では, ICT を活用した授業の効果検証のために, 教師による報告調査が行われていることや, ICT 活用能力テストが検討されていることが報告された。③では, 教科書デジタル化教材を教師がどのように工夫しかつ効果を感じるかについての聞き取り調査を行う予定であることが報告された。

(3) ワークショップ「ICT を活用した実践の研修カリキュラムを考える」 16:20-17:30

村川雅弘氏(鳴門教育大学)の進行の下, 学力として, 読解力, 表現力, 思考力, 協同性, 自己評価力, 発信力, 問題解決力を取り上げ, 最も興味のある学力を選び, ICT を活用してそれを育成するための実践や研修について, それぞれの班に分散してワークショップを実施した。

(4) 懇親会・情報交換会

地元鳴門産の鯛料理に舌鼓を打ちながら, 和やかな雰囲気の中, 参加者間で情報交換が行われた。

<1月7日(日)>

(5) 班別成果発表 9:00-10:00

前日のワークショップにおいてデジタル化された成果物を用いて, 各班の代表が報告を行った。

(6) パネルディスカッション「ICT の活用と学力との関連をとらえる研究デザインとこれまで明らかになったこと」 10:00-12:00

永野和男氏(聖心女子大学)の司会の下, 3人のパネラーが研究報告(①堀田龍也氏(メディア教育開発センター)「ICT 活用と学力向上に関する文部科学省調査研究のデザイン」, ②黒上晴夫氏(関西大学)「デジタルコンテンツの効果～授業展開における変化から～」, 山西潤一氏(富山大学)「ICT 利活用と教育達成度～英国 Becta ICT Research に学ぶ～」)を行った。①では, 広範囲の調査研究(教師と児童・生徒)の結果報告がなされ, 「ICT は効果がある」から「効果があるように ICT を活用する」ことが課題であるとされた。②では, デジタルコンテンツによる授業の質的变化を教師の指導案の変化や聞き取り調査から明らかにしてきていることが報告された。③では, 英国教育工学通信協会(Becta)が行っている調査資料を基に, ICT 利活用と学力の関係等についての報告がなされた。

3氏の報告を受け, 指定討論者である中山実氏(東京工業大学)から, エビデンスの必要性が指摘され, それに関する質疑が展開された。

(文責:永田智子)



お知らせとお詫び

2月24日実施の企画委員会との共催の日本質的心理学会研究交流委員会企画ワークショップ「質的研究法は教育研究をどう変えるか」は当初の定員200名を大幅に超え, 会場の関係で250名まで受け入れることにしていましたが, 1月末にその定員にも達しました。当日受付は行いません。ご了承ください。

研究会の開催

研究会
2006



テーマ 授業実践とメディア活用

- 日 時：2007年3月3日(土)
- 会 場：園田学園女子大学30周年記念館4階 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
- 開催担当：堀田博史(園田学園女子大学) hotta@sonoda-u.ac.jp TEL. 06-6429-9909
- 交通案内：阪急塚口駅より徒歩10分・バス4分「園田学園女子大学」下車。
(尼崎市営バス阪神出屋敷行14系統)。阪急塚口駅へは大阪・梅田から急行で10分、神戸・三宮から特急利用で20分。詳しくは <http://www.sonoda-u.ac.jp/access.html> を参照。

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

- プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡：9:00-9:05

午前第一部 A会場(542教室) B会場(545教室) 9:05-10:25

(A-01):高等学校普通教科「情報」履修者の特性—平成18年度入学者を対象とした調査—,西田英樹(鳥取大学生涯教育総合センター),山岸正明・石田 雅・大野賢一・本村真一・井上 仁・近藤博史(鳥取大学総合メディア基盤センター)

(A-02):技術者モラル教育における教授活動ゲームのコンセプトマップ機能の活用,遠藤信一(東京工業大学附属科学技術高等学校),内野智仁・松田稔樹(東京工業大学)

(A-03):教授活動ゲームを用いた「ものづくり教育」のための指導案・教材作成ツールの開発,後藤瑤子・松田稔樹(東京工業大学大学院)

(B-01):レポート作成を題材とした「情報的な見方・考え方」指導教材の開発～より良い手順と表現の判断力育成のために～,久東光代(日本女子大学),松田稔樹(東京工業大学)

(B-02):情報モラル指導法が情報技術活用態度に与える影響に関する実践的研究,榮永道子・松田稔樹(東京工業大学大学院)

(B-03):情報教育における留学生と日本人学生のCMC利用に関する比較分析,米久保徹(東京ビジネス外語カレッジ),立野貴之(和光大学),加藤尚吾(早稲田大学人間科学学術院),加藤由樹(東京福祉大学社会福祉学部)

-----休憩(10:25~10:35)-----

午前第二部 A会場(542教室) B会場(545教室) 10:35-11:55

(A-04):教職課程履修者に生徒を意識した授業の設計を促すための教授活動ゲームの活用,後藤謙治(東京工業大学理学部),松田稔樹(東京工業大学大学院)

(A-05):携帯電話を活用した予習教材自動配信プログラムに関する実践,立野貴之(和光大学)・加藤尚吾(早稲田大学人間科学学術院),加藤由樹(東京福祉大学社会福祉学部)

(A-06):高等教育における映像制作活動への関係論的アプローチ～京都大学全学共通科目の授業実践を事例として～,辻高明(京都大学大学院教育学研究科)

(B-04):大学生のPCや携帯電話などのメディア利用行動に関する調査—予備調査の実施と結果—,辻靖彦・葉田善章(メディア教育開発センター),西森年寿(東京大学大学総合教育研究センター),稲葉利江子(情報通信研究機構知識創成コミュニケーション研究センター),清水康敬(メディア教育開発センター)

(B-05):中学校における『総合的な学習の時間』とメディア活用の課題,高木浩志(宝塚市立高司中学校),田中博之(大阪教育大学)

(B-06):コミュニケーションとメディアリテラシーの教育—小学校における授業実践への提言—,井上はねこ・黒上晴夫(関西大学総合情報学部)

-----昼食(11:55~13:10)-----

午後第一部 A会場(542教室) B会場(545教室) 13:10-14:55

(A-07):癒しを目的としたアパタの開発とその効果の検討,三尾綾子,Prach Chaisatien・椿本弥生・御園真史(東京工業大学),柳沢昌義(東洋英和女子大学),赤堀侃司(東京工業大学)

(A-08):参加カリキュラムが及ぼす保育者や保護者自身のMedia Awarenessの変容—幼児のメディア遊び場面に焦点化して—,中村恵(奈良教育大学大学院)

(A-09):幼稚園・保育所向け番組のデジタル教材の開発と評価,堀田博史(園田学園女子大学)

(A-10):視線と手先軌道から見た工学実験における教育法の提案,野口健太郎(沖縄工業高等専門学校),野口健太郎・神里志穂子・比嘉修・佐竹卓彦・比嘉信・野崎真也・奥田篤士・鈴木龍司(沖縄高専)

(B-07):遠隔講義による異文化間コミュニケーション—学習者の不安要因に関する質的分析—,辻岡圭子・前迫孝憲(大阪大学大学院),室岡義勝(大阪大学)

(B-08):英語のリスニング教材と発話指導のブレンディング学習による学習効果,藤代昇丈(岡山県情報教育センター),宮地功(岡山理科大学)

(B-09):中級日本語聴解コンピュータ教材(IJLC)における学習者のナビゲーションパターン,石崎俊子(名古屋大学)

(B-10):不登校児童生徒への組織的対応を支援する事例データベースの開発,五月女保幸(川口市立神根中学校),野村泰朗(埼玉大学)

-----休憩(14:55~15:05)-----

午後第二部 A会場(542教室) B会場(545教室) 15:05-16:50

(A-11):ICTが授業展開に与える影響について,泰山裕(関西大学総合情報学部),内垣戸貴之・坂田篤志(関西大学大学院),黒上晴夫(関西大学)

(A-12):ICTを活用した学習指導の効果を示すための現場教員向け実証キットの開発,高橋純(富山大学),堀田龍也(メ

ディア教育開発センター),山西潤一(富山大学)

(A-13):分散处理的な見方考え方を学ぶ教材の提案と実践一選択科目「情報B」を中心に、齋藤実(埼玉県立川越高等学校),本郷健(川村学園女子大学),近藤邦雄(埼玉大学),須藤崇夫(埼玉県立総合教育センター),堀口真史(埼玉県立浦和工業高等学校),佐野和夫(横浜市立東高等学校),大河原広行(神奈川県立新磯高等学校)

(A-14):分散处理的な見方考え方を学ぶ教材の提案と実践一必修科目「情報B」を中心に、大河原広行(神奈川県立新磯高等学校),本郷健(川村学園女子大学),近藤邦雄(埼玉大学),須藤崇夫(埼玉県立総合教育センター),齋藤実(埼玉県立川越高等学校),堀口真史(埼玉県立浦和工業高等学校)佐野和夫(横浜市立東高等学校)

(B-11):教授活動ゲームの活用による授業改善の試みその2,小杉直美・松田稔樹(東京工業大学大学院)

(B-12):教授活動ゲーム用コンセプトマップ機能における操作方法の改良と評価,内野智仁・松田稔樹(東京工業大学大学院),遠藤信一(東京工業大学附属科学技術高等学校)

(B-13):簡易マイクロティーチングにおける受講者の自己・相互評価の効果,三尾忠男(早稲田大学教育学部)

(B-14):授業アンケートから「授業レビュー」の方法へ,向後千春(早稲田大学人間科学学術院),伊豆原久美子(早稲田大学),富永敦子(文教大学)

閉会挨拶・諸連絡 16:50-16:55

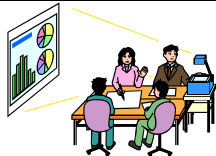
研究報告集年間購読のお勧め



予約価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。年間5冊,合計500ページ前後で,各研究会平均16件程度(平成17年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは,学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル TEL/FAX:03-5740-9505
E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の発表募集



地域教育力と情報教育／一般

- 日 時:2007年5月19日(土)
- 会 場:北星学園大学(004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号)
- 開催担当:武田亘明(北星学園大学短期大学部)
- 申込締切:2007年3月19日(月) ●原稿提出:2007年4月19日(木)

● 募集内容:

社会の変化に伴って教育に関する課題は多様化しています。学校,地域,家庭,行政などが連携して取り組む体制づくりが急がれています。今回は,地域教育力と情報教育をテーマに,広く地域との連携による授業実践における可能性と課題について議論したいと思います。また,上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

● 応募方法:

研究会Webの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

● 申し込み締切:2007年3月19日(月)

締切後,申し込まれた方宛に発表の採択結果を執筆要項とともに電子メールにて連絡いたします。

●原稿提出期限:2007年4月19日(木)必着(厳守!)をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお,PDF形式(サイズは1Mバイト未満)での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は,研究会事務局(jset-submit@nime.ac.jp)です。電子メールに添付して送ってください。

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望,研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会までお寄せ下さい。

■ (研究会全般,研究会Web Page,研究会発表の申込,変更等,原稿執筆)に関するお問い合わせ

⇒ 研究会幹事 jset-branch@nime.ac.jp

■ (年間購読,原稿提出)に関するお問い合わせ

⇒ 学会本部事務局 office@jset.gr.jp

■ なお,次年度1回目の研究会は7月7日(土)新潟医療福祉大学(担当:後藤康志)「教育とメディア/一般」です。

研究会の報告

2006年12月16日長崎大学において「コミュニケーションを重視した教育実践と情報モラル教育」というテーマで研究会を開催しました。全国大会の直後で発表件数が集まるか心配でしたが,28件のご発表と特別講演があり,大変充実したプログラムとなりました。Webを活用した学習,ブログやQRコードなど新しいメディアに着目した研究,それに伴う情報モラルやコミュニケーションの問題と教育方法を扱った両者の視点は今の教育工学の現状がよく現れており,両者とも欠かせない視点のように思いました。特別講演ではこうした現状をよく踏まえていただき,Kemi Jona先生からはただのムーブメントのみには終わらないより実践的なインストラクショナルデザインを具体的な教材事例を用いてご紹介いただいたのでとても参考になりました。講演者をご紹介いただき,ボランティアにて通訳をしていただいた鈴木会員(熊本大学)はじめ,登壇者,参加者の皆様にご挨拶申し上げます。(担当:長崎大学 寺嶋浩介)



平成 18 年 論文投稿件数と採択率

2006 年 1 月～12 月の間に投稿された論文の採択率(12/31 現在)は以下の通りです。

	投稿	採録	査読中	返戻	著者取下げ	採択率
一般論文誌	70	14	35	21	0	20～70%
特集号	34	14	0	18	2	41%
ショートレター-Suppl. 号	85	48	0	28	9	56%
ETR (英文誌)	5	4	0	1	0	80%

採択率の最小値：1 年間に投稿された論文が年末までに採択になった割合の論文数で計算

最大値：現在査読中の論文がすべて採択された場合の論文数で計算

月ごとの詳細は以下の通りです。

2006 年	1 月				2 月				3 月				4 月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	5	1	2	0	8	33	0	0	6	0	26	0	11	0	57	1
採録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
返戻	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
取り下げ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0

2006 年	5 月				6 月				7 月				8 月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	5	0	0	0	5	0	0	3	5	0	0	1	3	0	0	0
採録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2	21	0
返戻	4	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	16	21	0
取り下げ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	0

2006 年	9 月				10 月				11 月				12 月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	4	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0
採録	4	0	19	0	0	12	8	0	10	0	0	0	0	0	0	0
返戻	5	0	6	1	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0
取り下げ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0

2007 年度会費納入のお願い

年会費は原則として前払いとなっております。今年から会費請求書を別便でお送りしますので、クレジットカード支払い、または同封します郵便振込用紙により 2007 年度(2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日)の年会費をご送金くださるようお願いいたします。

年会費の年額は右記のとおりです。

本学会では、年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています。2006 年度会費未納の会員が会費を送金された場合には 3 月にまとめて発送します。

□会員種別と年会費・受けるサービス

(入会金 1,000 円)

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000 円	1	1	1	1
准会員	5,500 円		1		1
学生会員	5,500 円	1	1	1	1
維持会員	50,000 円/口	3	3	3	3
名誉会員	無 料	1	1	1	1

(注) 論文誌：和文/年 4 回発行

増刊号：ショートレター特集/年 1 回発行

英文誌：英文/年 1 回発行

JSET：ニューズレター/年 6 回程度発行

◆学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で、研究生は該当しません。
- 学生会員の所属機関は、必ず大学名となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、資格条件（大学名、学部名／研究科名、指導教官名、卒業見込／修了見込の年月）を必ず連絡してください。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費 5,500 円を納入された方は、とりあえず准会員に変更させていただいております。

2007 年度研究報告集の予約購読(年額 3,500 円)について

本学会では、研究会を 5 回または 6 回開催し、研究報告集を発行しております。この研究報告集は事前に代金 3,500 円を送金された会員に配布しています。事前に 3,500 円をご送金ください。

研究会当日、会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後に郵送いたします。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集を郵送します。

代金後納の場合と非会員の場合は、以下に販売を委託しています。代金：5,000 円

- ・株式会社毎日学術フォーラム 澤井正幸
- ・〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2 階
- ・TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555 E-mail. maf-sales@mycom.co.jp

第 22 回全国大会講演論文集の購入について

昨年 11 月に関西大学で開催された第 22 回全国大会の論文集に残部があります。購入をご希望の方は、学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) にメールで在庫を確認の上、以下の金額をご送金ください。ご入金を確認後お送りいたします。

郵便振込用紙の通信欄に「第 22 回全国大会講演論文集」とご明記ください。特にご要望がない場合、請求書・領収証等を発行しておりませんので、必要な方はその旨ご記入ください。

- ・第 22 回全国大会講演論文集 1 部 5,800 円 (論文集代 5,000 円+送料 800 円)
- ・口座番号：00180-2-539055 加入者名：日本教育工学会

代金後納の場合と非会員の場合は、上記の研究会報告集と同様に (株) 毎日学術フォーラムに販売を委託しています。代金は 7,000 円+送料となります。

第 11 期第 13 回理事会議事録

日 時:平成 18 年 11 月 25 日(土)15:00～17:00

場 所:キャンパスイノベーションセンター 806 会議室

出 席:赤堀侃司会長, 永野和男副会長, 矢野米雄副会長,

池田満, 植野真臣, 大谷尚, 木原俊行, 向後千春, 三宮真智子, 鈴木克明, 中山実, 永岡慶三,
堀田龍也, 村川雅弘, 山内祐平, 事務局:磯野, 服部

1. 第 11 期第 12 回理事会議事録を資料のとおり承認した.

2. 会員の移動について承認した.

(1)新入会員 12 名(正会員 7 名, 准会員 2 名, 学生会員 3 名)

(2)会員種別変更 2 名(正会員へ 1 名, 准会員へ 1 名)

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会 矢野副編集委員長から, 一般論文誌, 英文誌, 特集号論文, ショートレターの編集状況, 来年度の論文誌特集号編集委員会, ショートレター編集委員会が設置, 編集委員の交代について報告があった.

(2) 研究会委員会 永岡理事より研究会委員会で来年度の研究会開催日程を決定する予定であることが報告された.

(3) 企画委員会 村川委員長から, 冬の合宿, 産学協同セミナーの開催予定が報告された.

(4) 大会企画委員会 鈴木委員長から, 来年度大会の実施について, 検討している事が報告された. ポスターセッションの導入について意見を出し合い, 導入実施については, 会長に一任することにした.

(5) 顕彰委員会 三宮委員長から, 研究奨励賞候補の推薦について依頼があった.

(6) 選挙管理委員会 大谷委員長から選挙管理委員会の設置, 選挙手続きについて提案があり, これを承認した.

(7) 広報委員会 堀田委員長からニューズレター149 号の台割について案が示され, 担当の割り当てと原稿の執筆依頼を行った.

4. その他

(1)大会開催の在り方について, 会長と副会長で検討していることが報告された.

(2)大会論文, 研究会資料の著作権を来年度から学会に帰属させることを承認した.

(3)次々大会開催候補地について検討していることが報告された.

(4)国際化の推進について中国および韓国との研究交流案が報告された.

(5)中央教育審議会へのお願ひについて, 会長から提出されたことが報告された.

(6)本学会への広報

- ・2006 年度大会報告執筆および 2007 年度大会日程について(依頼と照会)(日本教育学会)
- ・機関別認証評価にかかる専門委員候補者の推薦について(依頼)(大学評価学位授与機構)
- ・第 1 回シンポジウムの開催案内(大阪大学サステイナビリティ・サイエンス機構)
- ・2006 年度関西学院大学総合教育研究室主催公開シンポジウム案内(関西学院大学)
- ・科学者の行動規範について(日本学術会議)
- ・メディア教育研究 特集「ICT 活用授業を活かした国際連携」(メディア教育開発センター)
- ・工学教育 Vol.54, No.5 (日本工学教育協会)
- ・NEW 教育とコンピュータ 2006.12((株)学習研究社)
- ・「コンピュータが支援する日本語の学習と教育」(水町伊佐男先生)
- ・第 3 回 6 地区コンベンション関連セミナーのご案内(6 地区コンベンション関連セミナー事務局)
- ・第 12 回中国・四国地方コンベンション誘致懇談会開催のご案内(徳島コンベンションビューロ)

(7)今後の理事会日程について

第 11 期第 14 回理事会:平成 19 年 1 月 27 日(土)14:40～16:30

第 11 期第 15 回理事会:平成 19 年 3 月 24 日(土)14:40～16:30

第 11 期第 16 回理事会:平成 19 年 5 月 12 日(土)14:40～16:30

以上

第 11 期第 14 回理事会議事録

日 時:平成 19 年 1 月 27 日(土)14:40~16:30

場 所:キャンパスイノベーションセンター 806 会議室

出 席:赤堀侃司会長, 永野和男副会長, 矢野米雄副会長, 山西潤一副会長,
植野真臣, 大谷尚, 木原俊行, 黒上晴夫, 向後千春, 近藤勲, 清水康敬, 鈴木克明, 中山実, 永岡慶三,
南部昌敏, 野嶋栄一郎, 美馬のゆり, 山内祐平, 大久保昇, 事務局:磯野, 長谷川, 服部

1. 第 11 期第 13 回理事会議事録を資料のとおり承認した.

2. 会員の移動について承認した.

(1)新入会員 11 名(正会員 7 名, 学生会員 4 名) (2)退会会員 11 名(正会員 9 名, 准会員 2 名)

(3)会員種別変更 1 名(准会員へ 1 名)

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会

・清水編集委員長から, 資料 3 に基づいて一般論文誌, 英文誌, 特集号論文, ショートレターの編集状況について報告があった.

・学会の Web で論文誌を公開し, 国立情報学研究所電子図書館サービスで提供している論文誌を有料化することにした.

・機関リポジトリへの許諾の件については, 学会の審議決定によって大学等の機関に許諾を与えることにした.

(2) 研究会委員会

・黒上委員長より 12 月の研究会開催状況, 3 月, 5 月, 7 月の開催計画が報告された.

・永野担当副会長から, 6 月以降の委員会構成を検討するために, 各委員会の規約をとりまとめて整理する予定が報告された.

(3) 企画委員会

・南部理事から, 冬の合宿(1 月 6~7 日鳴門教育大)の開催状況が報告された.

・企画委員会と日本質的心理学会研究交流委員会の共催研究会(2 月 24 日), 産学協同セミナー(3 月 3 日)の準備状況について報告があった.

(4) 大会企画委員会

・木原委員長から, 2007 年大会開催概要が報告された.

・大会ではポスターを導入するが, 希望者だけとする. English session を International session とする. 大会論文集は CD-ROM 化する. CD-ROM 化による著作権の取り扱いを明確化する.

・2008 年度は上越教育大で開催することにした.

・関西大学での大会会計について報告を受け, 会計報告上の取り扱いについて監事と検討することにした.

(5) 選挙管理委員会

・大谷委員長から, 資料 5 に基づいて第 1 段投票の結果について報告があり, これを承認した.

(6) 広報委員会

・資料 6 に基づいてニューズレター 150 号の台割案が示され, ページ数の構成について検討することにした.

・資料 7 の学会ホームページの運営についての提案について検討した.

4. その他

(1)大会開催の在り方について

(2)機関リポジトリの取り扱いについて, 編集委員会での報告を受け, 承諾することを確認した.

(3)機関別認証評価に係る専門委員候補者の推薦(依頼)についての報告((独)大学評価・学位授与機構)

(4)協賛名義の使用の承諾, 会告掲載と研究発表推奨について承認した.

・平成 19 年度工学・工業教育研究講演会((社)日本工学教育協会)

(5)本学会への広報

・平成 18 年度工学・工業教育研究講演会論文集((社)日本工学教育協会), ・社会団体に関する全国調査依頼(筑波大学人文社会科学部研究科), ・先進 IT 活用教育シンポジウム in 和歌山後援事業報告書, 冊子((財)コンピュータ教育開発センター), ・先進 IT 活用教育シンポジウム in 高知後援事業報告書((財)コンピュータ教育開発センター), ・J-Stage News No.13((独)科学技術振興機構), ・施設ガイド情報誌 sight 視察ツアーご案内(佐世保観光コンベンション協会), ・第 2 回研究助成採択者の助成研究報告書(公益信託マイクロソフト知的財産研究助成基金), ・NEW 教育とコンピュータ 2007,01・02(学習研究社), ・電気通信普及財団研究報告書(CD-ROM 版)((財)電気通信

普及財団)・平成19年度(前期)「環境リスク管理のための人材養成」プログラム「特別セミナー受講生」募集と受講案内(環境リスク管理のための人材養成プログラム事務局)・科学技術情報流通技術基準(SIST)普及説明会開催の案内((独)科学技術振興機構)・情報教育シンポジウム結果報告書(情報処理学会)・国立情報学研究所ニュース No.34(国立情報学研究所)・釧路工業高等専門学校紀要第40号(釧路工業高等専門学校)・NAGOYAショーケース2007開催について(名古屋コンベンションビューロー)・機関紙コンベンション夢大陸 Vol.67(富山コンベンションビューロー)・機関紙長野インフォーム第16号(長野観光コンベンションビューロー)・平成18年度コンベンション施設見学会のご案内(埼玉観光コンベンションビューロー)・施設関係紹介資料((株)夢工房)

(6)今後の理事会日程について

第11期第15回理事会:平成19年3月24日(土)14:40~16:30

第11期第16回理事会:平成19年5月12日(土)14:40~16:30

以上

新入会員 (2006年10月30日~2007年1月22日)

■ 正 会 員 14名

内藤広志(大阪工業大学)
大淵一博(札幌市立大学)
福原明浩
塚本民雄(大阪府立大学)
西納春雄(同志社大学)
金澤裕巖(元)三菱化学(株)
嵯峨山和美(東北大学大学院)
守谷智美(お茶の水女子大学)
大河弘昌(岡山県高梁日新高等学校)

賢根ジョン(東京工業大学)
壇辻正剛(京都大学)
酒井美恵子(国立音楽大学)
大竹正寛
井上仁
(鳥取大学総合メディア基盤センター)

■ 学 生 会 員 7名

野村和久(熊本大学大学院)
加納真(鳴門教育大学大学院)
行場絵里奈

小池竜一(岩手大学大学院)
小田切和也(愛知工業大学大学院)
高橋正人(東京大学大学院)
笹尾真剛(関西大学大学院)

■ 准 会 員 2名

湯浅且敏
中村俊介

学会日誌

- 2月24日(土) 日本質的心理学会研究交流委員会企画セミナー(金城学院大学)
- 3月3日(土) 産学協同セミナー(ジャストシステム東京支社)
- 3月3日(土) 研究会「授業実践とメディア活用」(園田学園女子大学)
- 3月24日(土) 理事会(CIC)
- 5月12日(土) 理事会(CIC)
- 5月19日(土) 研究会「地域教育力と情報教育」(北星学園大学)
- 6月16日(土) 第23回通常総会, シンポジウム, 理事・評議員会(東京工業大学)

国際会議の案内

SITE 2007 <http://site.aace.org/conf/>
ED-MEDIA 2007 <http://www.aace.org/conf/edmedia/>
ICALT 2007 <http://www.ask.itl.gr/icalt/2007/>
E-Learn 2007 <http://www.aace.org/conf/eLearn/>
ICCE 2007 <http://www.icce2007.info/>

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ.....編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ.....研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ.....大会企画委員会 (taikai2006@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ.....広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他の掲載記事に関するお問い合わせ.....学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:堀田龍也, 委員:山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純
(独)メディア教育開発センター堀田研究室 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.149

2007年02月21日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055